

働きすぎ黒書 ニュース

全日本教職員組合（全教）生権局

東京都千代田区二番町 12-1 3 F

2006年12月26日

いつもダブル・トリプルの仕事です。

千葉・小学校教員

NO.6の「子どものための時間がもっとほしい」の投稿に120%共感します。

私は2年生33名のクラス担任です。10数年前は忙しくても、一つのことが終われば少しホッとして、また次のことへ、というメリハリがありました。今は、「報告だ」「提案だ」「書類だ」と次から次へやるのが重なり、いつもダブル・トリプルで仕事を進めているのが実情です。一番必要な明日の教材研究の時間が、勤務時間内に取れるようなことはまずありません。

6月、私の水曜日の一日です。

7時30分出勤（児童会でアルミ缶集めをしています。この時間から始めるので担当も出ます）。8時から朝の会で、終わりの会終了は15時。この間、休憩時間はありません。長い休み時間や昼休みは、けんかの仲裁・寄ってくる子どもとの会話（何かしながら、耳だけで聞いていることもしばしば）・前の時間のノートの見直し・学級作り、ときには学年の打ち合わせ。

15時から下校指導。学年下校を見送って、学区を車でパトロール。（途中まで歩いてついて行くこともあります）帰校は15時半ごろ。高学年の下校（16時）を待って会議、会議のない日は本当に珍しいです。休む間もなく16時30分からは職員打ち合わせ。この日は国語のテストを持ち帰りました。残って仕事をするか、持ち帰って家でするか、いずれにせよ、タダ働きの時間外勤務です。

16時45分の退勤時間に終わったことはほとんどありません。会議のない日は、17時過ぎから学年やクラスのことを始まります。ノートを見たり、日記の返事を書いたり、採点したり・・・私の退勤は18時半過ぎ。平均で19時頃でしょうか。それでも職場では「仕事をしない」ほうです。

先の男性がおっしゃるように、せめて2時間は教材研究の時間がほしいですね。教員の恒常的なストレスは、明日の準備ができないままに、翌日を迎えてしまうことだと思います。